愛知教育大学附属高等学校研究紀要第 49 号
pp.33～38（March, 2022）

「SDGs 総選挙」の実践報告（続編）

―SDGs を争点とした主権者教育―

令和２年度　第２学年　小田原健一

昨年度、第２学年では総合的な探究の時間において、「SDGs 総選挙」と題して、SDGs を主要な争点とした主権者教育を実践した。令和３年３月に発行された本校研究紀要第 48 号では、その途中経過を報告したが、本稿はその続編であり主な報告内容は、生徒の演説の様子、アンケート結果とその分析である。

＜キーワード＞主権者教育　SDGs　高校生の社会参画　総合的な探究の時間のあり方

1．活動の目的など

昨年度報告した活動の目的などを、簡潔にまとめておく。

(1) 目的

SDGs に関する探究活動と主権者教育を融合させることで、両者の魅力を高め、より効果的な授業を実現すること。

(2) 実施予定

・第１回

ガイダンスと政党作り　＊実現したい SDGs の目標を 17 分野の中から３つ選び、この目標を軸にクラス内で４名以内の政党を結成する。

・第２～５回

政策立案　＊選んだ３つの目標に関わる政策と各政党の目玉となるオリジナル政策を立案する。

＊SDGs の目標を自分事と捉えるため、自分達の学校の魅力を高めるため、学校でどのように目標を達成するか提案する。

＊政策は期限と財源を示した所定のマニフェスト用紙にまとめる。

・第６～７回

クラス内演説　＊２週に渡って、各政党がクラス内で４分間の演説を行う。

＊２週目、全ての政党の演説後にクラス内投票。第一党は学年演説へ。

・第８回

学年演説　＊５クラスの代表政党による演説。授業構想にご協力を頂いた愛知教育大学の真島先生とゼミ学生を交え討論会。

＊全政党の演説後、実際の選挙機材を用いて投票。

＊第一党は、校長先生に政策を提案する権利を得る。

なお、昨年度の報告は政策立案の２回目までの状況をまとめたものである。

2. 政策立案

政策立案には冬休みを挟んで２回ずつ、合計４時間分の授業を充てた。限られた時間の中で生徒たちは政党毎に協力して取り組み、期限までにマニフェストを完成させ、演説に臨んだ。活動の様子を次の図１・２で紹介する。

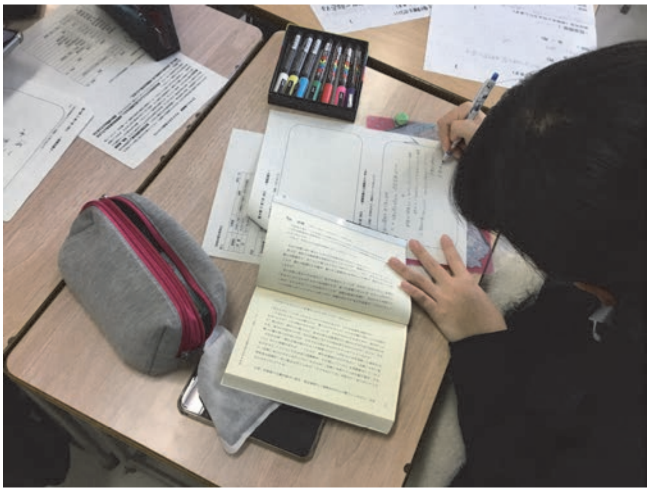


図１　生徒の様子

政策の実現性に説得力を持たせるために、しっかりと調べることができている。

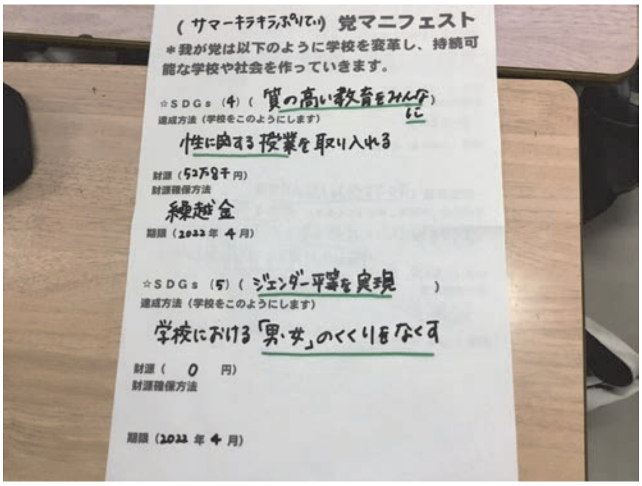


図２　マニフェスト

所定の書式にペンで書き込ませた。演説時には、これを写真に撮ったものを投影した。

3. クラス内演説

２週間に渡ってクラス内演説を行った。日程の都合上、この２回の中から１政党を選出する形式を採ったので、評価基準にずれが生じないように簡単なルーブリックを生徒には配付した。しかし、それでも投票を行う２週目に演説した政党が有利になったことは否めない。図３・４は演説の様子である。

図３　演説する生徒の様子

図４　演説を聴く生徒たちの用紙

真剣な表情で聴き入る生徒が多くいたのが印象的であった。

４．学年演説

各クラスの代表となった５政党が、学年の生徒・職員、愛知教育大学社会科教育講座の真島聖子先生とゼミ学生の前で演説に臨んだ。代表政党決定から１週間しかなかったので、当初はクラス内発表で使用したマニフェストを投影する予定でいたが、代表政党の生徒たちを集めた場で、学年演説用にスライドを作成したいという申し出が一人の生徒からあった。結局、全５政党が新たにスライドを作成することになったので、作成済みのマニフェストを冊子上にして関係者に予め配付することができた。

演説当日は、地元のケーブルテレビ局の取材も含め、体育館で大勢を前にして演説するという慣れない状況の中、代表政党はしっかりと演説をし、真島先生やゼミ学生、或いは同級生の質問に対して、時々うろたえながらも真摯に応えることができた。図５・６は体育館での演説と投票の様子である。

図５　演説の様子

第一党となった結果にコミッ党はペーパーレス化の進行を訴えた。

図６　投票の様子

刈谷市選挙管理委員会から本物の機材をお借りした。

５．アンケート結果

(1) 生徒アンケート

第１回目のガイダンスで事前アンケート、臨時で行った第９回目の振り返りで事後アンケートを行った。生徒の変化を確認するため、事前・事後ともほぼ同じアンケートにしたが、次の図７が重複している質問項目であり、生徒の政治や SDGs に対する興味・知識の変化が表れている。

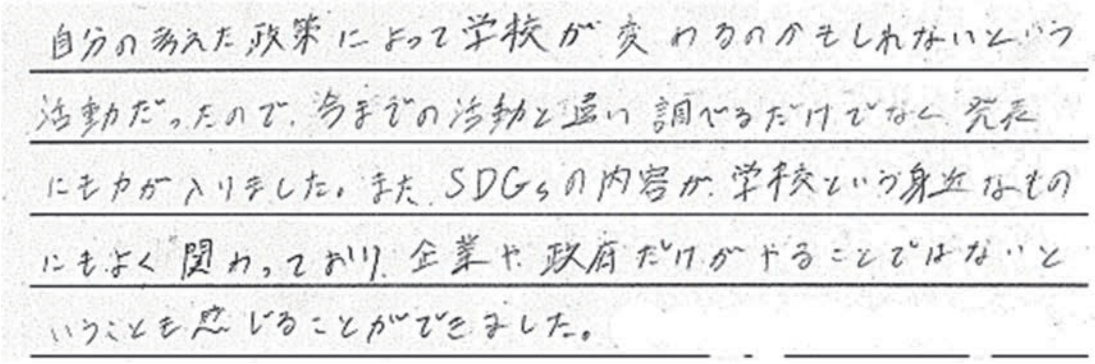
政治や選挙に関する興味がありますか	ある 17 人（9.1%） ↓ 28 人（14.4%）	ややある 78 人（41.9%） ↓ 86 人（44.1%）	どちらでもない 32 人（17.2%） ↓ 43 人（22.1%）	あまりない 40 人（21.5%） ↓ 27 人（13.9%）	ない 19 人（10.2%） ↓ 8 人（1%）
政治や選挙に関する知識がありますか	ある 2 人（1.1%） ↓ 3 人（1.5%）	ややある 42 人（22.5%） ↓ 50 人（25.6%）	どちらでもない 39 人（20.9%） ↓ 53 人（27.2%）	あまりない 86 人（46.0%） ↓ 74 人（38.0%）	ない 18 人（9.6%） ↓ 12 人（6.2%）

18 歳になったら選挙で投票に行きますか	行く 67 人（35.8%） ↓ 69 人（35.4%）	多分行く 68 人（36.4%） ↓ 87 人（44.6%）	わからない 38 人（20.3%） ↓ 27 人（13.9%）	多分行かない 11 人（5.9%） ↓ 9 人（4.6%）	行かない 3 人（1.6%） ↓ 0 人（0%）
SDGs に関する興味がありますか	ある 20 人（10.9%） ↓ 52 人（26.7%）	ややある 82 人（44.6%） ↓ 86 人（44.1%）	どちらでもない 38 人（20.7%） ↓ 32 人（16.4%）	あまりない 29 人（15.8%） ↓ 17 人（8.7%）	ない 15 人（8.2%） ↓ 5 人（2.6%）
SDGs に関する知識がありますか	ある 4 人（2.2%） ↓ 8 人（4.1%）	ややある 85 人（45.7%） ↓ 115 人(59.0%）	どちらでもない 58 人（31.2%） ↓ 47 人（24.1%）	あまりない 35 人（18.8%） ↓ 20 人（10.3%）	ない 4 人（2.2%） 2 人（1.0%）

図７　アンケート結果
各質問項目の上段が事前、下段が事後のアンケート結果である。

まず、政治や選挙について言及すると、事前アンケートの段階で既に興味がある、ややあると答えた生徒が半数以上いたが、興味も知識も少しずつ高まっている。特に 18 歳での選挙で投票に行かないと答えた生徒は一人もいなくなっており、アンケートの段階ではあるものの、本実践の一つの成果だと思う。

次の SDGs についてだが、興味があると答えた生徒が倍以上に増え、知識がややあると答えた生徒も大幅に増えている。アンケートとは別にレポートを課したが、次の文は生徒のレポートの一部である。


自分の考えた政策によって学校が変わるのかもしれないという活動だったので、今までの活動と違い調べるだけでなく発表にも力が入りました。また、SDGsの内容が学校という身近なものにもよく関わっており、企業や政府だけがやることではないということも感じることができました。

SDGs は「誰一人取り残さない」という理念が示す通り、全ての人々に関わる地球規模の目標である。そのため、一般の高校生は「遠い世界の話」、「自分達では何もできない」という印象を持ちやすい。私の過去の実践でもそのような印象を持っている生徒は積極的な活動は出来なかった。それに対して、本実践は学校を舞台にして、自分達の学校をどう魅力化していくかを考え、情報を集め、提案していく活動であったので、生徒の積極性を引き出し、結果として SDGs に対する興味や知識の高まりに繋がったと考えられる。

学年投票の結果、ペーパーレス化の促進を強く訴えた結果にコミッ党が第一党となり、党員は校長に自分たちの政策を提案した。ちょうど、学校でもペーパーレス化を進めており、既に職員会議は Classi を活用していたが、これを機に各種の通信も Classi などを通して配信する流れが強まっている。実は私個人は、全てをペーパーレスにすることの効果については懐疑的で、学年通信は紙で発行したいという

気持ちが残っている。紙で発行していた時代の学年通信には生徒からも保護者からもそれなりに反響があり、卒業後も節目には学校のHPを利用して通信を発行していた。現在、入学後から配信している学年通信には、反響はほぼない状態なので、紙で伝えることの意義はあったかと思っているが、致し方ないところである。レポートで、ペーパーレスについての意見を述べた生徒も賛否が分かれた。賛成の立場の生徒からは「アンケートだけでなく、このレポートもClassiを活用した方がいいのでは？」という意見が出た。このような指摘をする生徒が出ることを望んではいたが、タブレット端末やパソコンが一人一台ないので、多くの生徒はスマホで入力することになる。日常的に長時間、スマホを利用しているのであろうが、授業中ずっとスマホに入力を続けるのを避けたかったこと、そして何より、教員側がレポートを読む時に印刷することが予想されたので、紙に書かせることにした。私は約200名の生徒が提出した紙のレポートに一通り目を通したうえで、PDF化して保存した。本稿執筆にあたってPDF化したレポートにもう一度目を通そうとしたが、保存の向きが横向きになっており読み辛かったこともあるが、20名分を走り読みするだけで終わってしまった。また、否定的な立場の生徒からは、「紙でないと読みにくいし、データだと探すのに手間で読まなさそう。」という私の感覚に似た意見が出てきた。いずれの立場にしても、生徒たちのレポートからは自分事と捉えている様子が伝わってきた。

(2) 職員アンケート

学年の職員には記述式でアンケートをとり、実践への意見を寄せてもらった。以下はその抜粋である。

「マニフェスト作成（準備期間）について、改善点、残すべき点はありますか」

・クラス演説が終わったタイミングで初めて自分たちの政策の不十分なところに気づく政党も多かったように見えました。演説の前に一度別グループと発表・質問をしあうなど視野を広げる機会を作れるとよかったかもしれません。

「クラス演説について、改善点、残すべき点はありますか」

・場所や機材の問題はありますが、全ての班がパワーポイントなどを使ったプレゼンテーションができると良いかなと思いました。

・時間的に厳しいですが、やはり2回に分かれてしまうと投票日に発表したグループが有利となってしまっていたように思います。

「学年演説について、改善点、残すべき点はありますか」

・もう少し時間を取れると良かったですね。

・選挙の雰囲気も出て、とても良かったと思います。

・時間的に厳しいかもしれませんが、発表後の質問等や政党同士の意見交換の機会がもう少しあると各党の政策内容がさらに深められてよいように感じました。

「その他、お気づきの点はありますか」

・最後、政策の魅力でないところで選挙結果が出たように感じられたところは残念でしたが、一連の活動はとても良かったと思います。

・ルーブリックによる評価とは違う観点で投票させたのはとても良かったと思います。ただ、ルーブリックによる評価は評価として各班に還元できると良いかと思いました。

機材についての課題は令和４年度の入学生から一人一台の iPad を自費購入してもらうことになるので、改善が見込まれる。それより上の学年については一朝一夕には改善しにくいのが現状である。また、日程や進行について貴重なご意見を頂いたので、今年度の実践に活かしているところである。

６．おわりに

本実践を通して浮かび上がった構想はSDGsを一つの切り口として、生徒の興味・関心や視野を自分の周辺（学校）から地域社会（刈谷市、西三河地方、愛知県)、そして日本全国や国際社会へと広げていくという継続的な活動である。今年度、私は第１学年を担当しており、現在は、学年の総合的な探究の時間担当教員（青山教諭）に「SDGs総選挙－学校編－」を企画してもらっており、次年度は「SDGs総選挙－地域編－」を実施する予定でいる。最終年度の実施形態は模索中だが、日本や国際社会について考えるだけでなく、自分の考えを発信できるように生徒を育てていきたい。また、今年度の第２学年では「SDGs総選挙－地域編－」の名称ではないが、SDGsを通して、学校が所在する刈谷市の政策を提案する主権者教育を先行して実践している。

７．参考文献

総務省・文部科学省　『私たちが拓く日本の未来―有権者として求められる力を身につけるために―』(2015)

村上芽・渡辺珠子(2019)『SDGs入門』、日経文庫

小田原健一ほか（2017)「主権者教育の実践報告－生徒の活動を重視して－」『本校研究紀要第44号』

小田原健一(2021)「「SDGs総選挙」の実践報告－SDGsを争点とした主権者教育－」『本校研究紀要第48号』